

# Go for it !!

# 1

令和 3 年度 (2021 年度)  
5 年経験者研修 児童生徒理解研修  
(中堅教諭等資質向上研修)

<https://toyono-jinjikyo.com/>

豊能地区教職員人事協議会では、「子どもとともに学び続ける教職員」をめざす教職員像とし、法定研修を実施しています。これまで 10 年経験者研修として実施していた 15 回の研修を、この教職員像を見据え平成 30 年度より中堅教諭等資質向上研修として 5 年経験者研修 (4 回) と 10 年経験者研修 (11 回) に分けて実施しています。

今年度、5 年経験者研修は小学校教諭 80 名、中学校教諭 38 名、合わせて 118 名の先生方が受講されています。この通信は、豊能地区で行う共通研修の振り返りをもとに発信します。受講者の皆さんの視野を広げ、研修から学んだことをより深めることにつながればと願い作成をしています。

第 1 回は、大阪教育大学の水野治久先生に演習を交え動画でご講義いただきました。学級経営や子ども理解について、これまでの学級や子どもたちとの関わりなどご自身の経験と結びつけながら聞くことで、実感しながら理論を理解することができました。(以下は振り返りシートの抜粋です。)

## ～ 振り返りシートより～

私はこれまでグループワークを通して集団づくりができるのではないかと考え、取り組んできましたが、グループワークはある程度集団が自律的に動き出してからだということを知り、集団が育ってこそそのグループでの学びなのだ気づかされました。「あと一步」「あまり目立たない」と感じる児童に注目し、声をかけたりすることの大切さは、児童と関わる上で実感しています。そのような児童が安心して意見を言い、動くことができるあたたかい雰囲気をつくるのが集団をつくる上で必要なことだと感じました。児童は本当によく教師を見ていると感じます。何よりも教師自身があたたかい声をかけたり、能動的に動こうとする児童の行動を認め、価値づけしたりしていく姿勢を見せることで児童の友だちとの関わり方が変わっていくのだと思います。まずは児童に投げかける言葉選びから意識していこうと思います。

学級経営を段階的に行っていくという視点は私も大切だと考えます。しかし、学級担任をしているとどうしても「あれもさせないと…」「これもできていない…」などできていない行動に目を向けてしまいます。私もかつて生徒との関係ができていない状態で子どもたちに褒めもせず多くのことを要求したり、頭ごなしに叱ったりしたせいで大きな失敗をしたことがあります。大切なのは年度当初の「関係づくり」だと、今日の講義をもって再確認できました。焦らずじっくりと「関係づくり」を仕組んでいきたいと思っています。

自分は今、低学年を担当していますが、子どもの様子を見ていると、「先生、〇〇できたよ。」と自己アピールはできるのですが、他の友だちのために動く親切心は少ないように感じていました。子ども同士の関係性が希薄であるためであると考えました。「混沌・緊張」期であるからこそ教師が一人ひとりの子どもたちの長所を取り上げて価値づけてあげるべきだと感じました。それができるのは日ごろからの声掛けや保護者に向けた学級通信、また何より日ごろの授業内で行っていかなければならないと感じました。

学級経営の講義を聞き、中学校 3 年間は子どもたちが心身共に成長する時期であり、学級も混沌・緊張状態になりやすい時期ではないかと思いました。その多感な子どもたちの対応は担任だけでなく、学年の教員やスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーなどの専門家とも連携・情報共有し、チームで個々を丁寧にサポートしていくことが大切だと感じました。教職員間の報告・連絡・相談を大切にして、子どもたちが笑顔で安心して自分のもちあじを発揮できる環境づくりをしていきたいです。

混沌・緊張期に頭ごなしに指導して苦い経験をしたことを思い出し、教師と生徒の関係づくりの重要性と、生徒ではなく生徒の行動を注意することの重要性を再確認しました。小集団から中集団に上げるためにはどうするか悩んでいたのが、今回の講義にあった「小集団に入っていない子どもを大切にすること」はとても参考になりました。

ニーズのある子どもへの支援については、支援学級在籍の生徒をはじめ、いろいろな生徒に対して学年及び学校で連携して関わってきました。家庭訪問などを経て浮かび上がってきたその生徒を取り巻く環境をしっかりと共有し、手立てを考えることの大切さを5年間で学んできました。問題行動の裏には何かあると思って生徒を見捨てずに丁寧に関係を築いていくことをこれからもしっかりと心掛け、今回の講義にあった「生徒に指導するときは人格は否定せずに行動を指導する」ことも改めて意識していきたいと思います。

コロナ禍で子どもたちのストレスも高まっている中、子どもたちのサインを見落としてしまうと大変なことになりかねないとお話を聞いていて感じました。学校は様々な役職・役割の教職員で成り立っているため、子どもとのかかわりの中で気づいたことや情報を他の教職員と共有し、学校全体で一緒に見ていくことが大切だと感じました。

経験年数も5年目となり、たくさんの先生方の技術や手腕をそばで見る機会も増えてきて、少しずつ自分も教師としての個性やカラーを出していかなければと感じる日々でした。そんな中で、今回の講義は基本に立ち返って決して忘れてはいけない大切にすべきことを再確認する機会になりました。子どもたち一人ひとりを大切に、不登校傾向の児童など、自分で声を上げられない子たちこそ、丁寧に接すること、学習の個別化を図りながら、協同的な学びになるよう工夫や努力をすること、正直、すごく難しいことだと感じますが、それでも、5年目という経験年数でめざしていかなければならないことだと感じます。

今回の研修では、開講にあたって5年経験者研修の見通しや、教員の資質の向上に関する指標の話もしました。みなさんはこれまでの経験の中で培ってきたものがたくさんあると思います。この一年間の研修受講を、ぜひみなさんの「これまで」を振り返ることと、「これから」を見据える機会にしてください。

気づけば後輩も増え、校内で担う役割が変わってきている時期に、自分はどう立ち振る舞うか、そのために何を学ぶ必要があるのかを、指標とご自身のこれまでの経験・知識を照らし合わせるようにして活用してください。

今後のみなさんの活躍は必須です。学校を、豊能地区を支える教員として学び続けることを期待しています！



ONE TOYONO!

## 相互交流研修について

5年経験者研修としては全4回で、その後の「法定研修」としての実施は10年経験者研修となりますが、めざす教師像にもあるように「学び続ける」ことをぜひ大切にして過ごして下さい。豊能地区3市2町では、所属の市や町以外で実施している研修も受講することができます。実施については、豊能地区教職員人事協議会のWebページ「教職員研修」に一覧をアップしています。随時更新をしていますので、内容や実施日程・実施方法などをご確認ください。研修の申し込みは所属市町教育委員会（または教育センター）から案内があります。

研修実施については、会場に参集しての実施以外にも、オンラインを活用した実施方法（オンデマンド型・ライブ配信型）もあります。

ご自身の課題をつかみ、スキルアップやブラッシュアップを求めて、主体的に研修を受講しましょう！

